
発見

ポテトバサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

発見

【Zコード】

N31370

【作者名】

ポテトバサー

【あらすじ】

田舎の村へ仕事にいった、電気修理屋の手記。

一応、ホラーです。あまりホラーが好きじゃないという方はご遠慮下さい。

(前書き)

短編小説七作目です。

今回は前の六作とは違ったジャンルで書きました。

ほんの少し、残酷な描写があるので苦手な方は遠慮下さい。

× / 8 晴れ

今日はとても疲れた一日だった。田舎の村に一つしかない発電機が壊れたという連絡を受け、この村に来た。来るまでに三日も掛かってしまった。村に到着したときには、辺りは真っ暗だった。僕は急ぎペンションに向かいチェックインを済ませた。

ペンションは老夫婦が営んでおり、気さくで暖かな人柄で笑顔が絶えない一人だった。内装も暖かみのあるデザインで落ち着けるものだった。夕食を済ますと、僕は自分の借りた部屋に案内された。部屋の説明を受けたあと、僕はすぐにベッドへと落ち着いた。

× / 9 晴れ

朝食を済ませたあと、村長に挨拶へと向かった。村長も気さくな方で、修理許可証と歓迎の言葉を頂いた。そして、村長自ら発電機のある場所まで案内してくださった。道中にある村の名物や名所を紹介してくださった。村長の言うとおり、この村は本当に素晴らしいところだ。広大な草原には野うさぎがじゃれ合い、木々には季節の果実が実っている。草原の奥には壮大な山々がこの村を見守っている。

一時間くらいだろうか、ようやく発電機の設置されている小屋へと到着した。修理には時間がかかると思っていたが三十分程度で終わってしまった。簡単な部品交換と配線修理で済んでしまったからだ。あと二日ほど日程を取っていたのだが空白となってしまった。すぐに帰ろうかと思ったが、なんと明日、村全体でBBQを行うらしい。

しいのだ！ 参加しない馬鹿がどこにいるだろ？ 会社には適当に連絡しておけばいいだろ？

× / 10

早朝、妙な叫び声で目が覚めた。恐る恐る外へ出でみると村人達が慌てていた。どうやら、野犬か狼かが出たらしく家畜の動物たちが殺されてしまつたらしい・・・。爆竹や銃で追い払えたらしいが、怖いことだ。だがそんな恐怖心も夕方に始まつたBBQでしだいに薄れていつた。

私は初めて鹿の肉を食べたが非常に美味かつた。生でも食べられると聞いて試してみたが、これも美味かつた。少し酸味があり、マリネを食べているような感じだつた。村の特産品の果実で作った酒も美味かつた。甘酸っぱくフルーティーな味で飲みやすかつた。

まともな新婚旅行にも連れてあげられなかつた妻と、今度この村に来ようと思う。長期休暇を取り、妻にもゆっくりしてもらいたい。

× / 11 曇り

同じペンションに泊まつていた中年の夫婦が見当たらない。昨日のBBQでも見かけなかつた。ペンションの主人に聞いてみると、昨日の朝早くに急用が出来たといつてペンションを後にしたらしい。

正直、この文章を書いている僕は気が気じゃない。主人の話は嘘なのだ！ これを書く数分前のことだ。なかなか寝付けず、特産品の酒を飲みながら窓の外に目をやつた。そのとき僕は見つまつた。村人達が車を川に沈めているところをー。あの車はペンションを後

にした中年夫婦のものだ。村人達は確実に何かをしている・・・

今から三時間後の朝の一時、僕は「こ」を抜け出すつもりだ。

×／12 13? ピッチャだかしつたことではない 雨だ

最悪だ。村人達に見つかってしまった。なんとか、ペンションの地下に隠れている。

だがさいあくだ 人の肉やほねがそこらに ちらばっている はやくここにか

いま じぶんのへ屋ににげてきた カギを閉めベッドやいす とにかく家具をドアの前におき
バリケードを作った B B Oのへ 酒のげんりょうは・・うつ
う考えたくも無い!!
どうすればいい 村びとたちの叫び「えがき」に入る 右足のほねは
おれてしまつたようだ
ちがとまらない はやく帰ればよかつたんだ だめだ ドアがもた
ない あいつらがはいつてきてしま

俺はそんなことが書かれた、血にまみれた手記を浴室の壁とバスタブの間から発見した。そのとき、後ろから主人の声がした。

「B B Oの用意ができましたよ・・・」

(後書き)

読んでくださいありがとうございました。

ホラー好きの方にはがっかりだったでしょうか・・・？

えー・・・次回作に期待してください・・・？

それでは・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3137o/>

発見

2010年11月26日21時58分発行